

# 社説

ブログに中傷や非難などの書き込みが殺到する現象を

「炎上」または「祭り」と呼ぶ。そのために閉鎖に追い込まれる芸能人やプロスポーツ選手のブログが後を絶たない。そうした中、お笑いタレントのブログ炎上で警察が摘発に動いた。既に脅迫容疑で女性一人を書類送検、さらに名誉棄損の疑いで男女計十八人を書類送検する方針だ。

悪質な書き込みをめぐる一斉摘発は過去に例がない。タレントのブログには、タレントが殺人事件の犯人であるかのような無責任な書き込みが集中した。脅迫の疑いが持たれている女性はそれを事実だと思い、正義感から「殺してやる」と書き込んだという。ほかの男女も「人殺し」「死

ね」などの言葉を連ねた。

「別世界」勘違いか  
互いに連絡を取り合っていないわけではない。一つの書き込みが次々と書き込みを呼び、タレントの仕事や生活に

## ブログ炎上

# 荒れ放題では規制招く

れた別世界の出来事と勘違いしているのではないだろう。書き込みの際に、相手に面と向かって言えるか、あるいは実名で発信できるか—をまず考えなければならぬ。

今回の摘発がネットを使う一人一人にとって、自ら発信する言葉に責任を持つという

十代は約95%が利用者だ。だが急速な普及の陰で名誉棄損や中傷をめぐる警察への相談は三千六百八十五件(〇四年)、五千七百八十二件(〇五年)、八千三十七件(〇六年)と増え続け、〇七年には八千八百七十一件に達した。〇八年は上半期だけで五千四百八十二件(前年同時期比30・5%増)を数えた。プロ

影響を及ぼすような「暴力」にまで膨れ上がった。それぞれはひどいことをしたという意識はなく、警察が乗り出してくると思っていなかったようだ。

ルールを再確認するきっかけになることを望みたい。ネットの世界を荒れ放題にしておいたのでは、新たな規制を招き、せっかくの自由が制限されることにもなりかねないからだ。

グの炎上だけではない。中高生の間で掲示板やプロフィール(自己紹介サイト)への書き込みによる陰湿ないじめも相次ぎ、せんだつても中学三年の女子生徒が、プロフィールに書き込んだ同級生の名前を挙げた遺書を残し、自殺していたことが明るみに出た。

ネットの匿名性は、職業や肩書にとらわれず対等な立場で意見を述べ合うことを可能にする。その良さを損ない、手放すようなことがあってはならない。

インターネットは、誰もが参加して自由に意見や反論、批判を交わせる場だ。だが匿名性をいいことに心ない中傷が繰り返される。現実から離

警察への相談も急増  
総務省によると、二〇〇七年中にネットを利用した人は八千八百一十万人。二十一

お隣の韓国でも昨春秋、トップ女優がネット上の中傷に

お隣の韓国でも昨春秋、トップ女優がネット上の中傷に